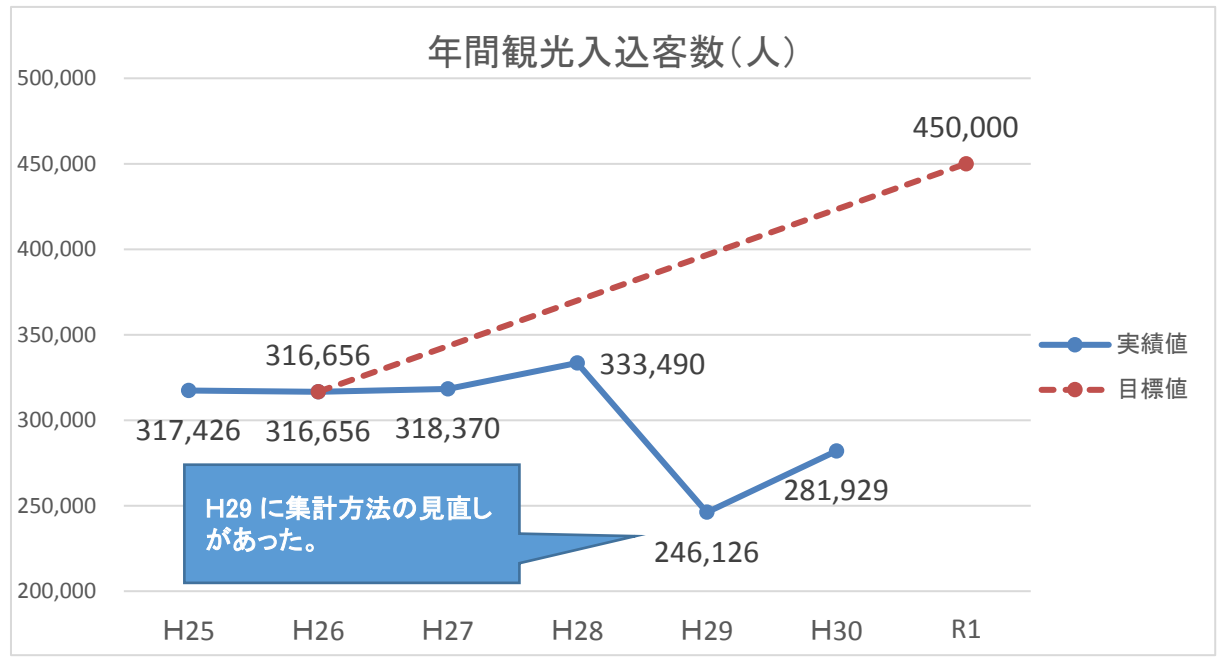


御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略
施策検証シート
(令和元年度以前分)

基本目標：地域産業の創生と雇用の拡大						総合戦略 P13	
数値目標：年間観光入込客数						目標	担当課・班
(単位：人)						450,000	産業観光課
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	商工観光班
317,426	316,656	318,370	333,490	246,126	281,929	未公表	

※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。各年度の数値は千葉県観光入込調査報告書のものです。本報告書では、入込客数が一定数以下の地点入込客数がカウントされていないため、町勢特集号の数値と一致しません。令和元年度は県においてまだ公表されていません。



これまでの実施状況とこれからの方針

【主な実施事項】
<ul style="list-style-type: none"> 御宿海岸を生かしたビーチスポーツを推進し、ビーチバレーボールやライフセービング大会の開催や合宿誘致に取り組んでいます。平成27年度からは新たにビーチサッカー大会を誘致し積極的な海岸活用に努めました。 海水浴場での禁止事項案内看板を設置し、海岸利用者へのマナー向上を図るとともに、快適な利用環境づくりに取り組んでいます（H27～）。平成29年度からは取り組みを強化し、中央海水浴場へ「臨時交番」「移動交番」を設置しました。 ベイエフエムとサマーキャンペーンを実施し、ラジオ番組での宣伝や御宿海岸を題材としたポスター、うちわ等の作成を行い、御宿海岸のイメージアップを図りました（H27～28）。 商工会青年部が株式会社バスクリンと共同開発した「御宿の湯」が発売されました（H27）。町でも購入し、各キャンペーン等で御宿のPR活動に活用しています。 多言語ガイドブックを作成し、外国人観光客の受け入れ体制を整備しました（H27）。 大型多言語案内看板を国道128号線沿い（新町）に設置し誘客を図りました（H27）。

御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート

- ・外国人客に対応するため、英語表記を加えた観光案内看板を7箇所を設置しました（H28）。さらにこの看板にはAR（拡張現実）機能があり、中国語、韓国語、スペイン語での表記を見ることができます。
- ・町外の主要道路沿い2か所（勝浦市内、いすみ市境）に御宿町への案内看板を設置しました（H28）。
- ・千葉ロッテマリーンズと協力し、同球団のホームゲームで御宿PR映像を1試合8回、全20試合で放映しました（H29）。
- ・千葉ブランド水産物である外房つりきんめ鯛を活用した「おんじゅく釣りキンメ祭り」を開催し、ブランド認知度の向上と地域消費の促進を図りました（H29～）。
- ・コニカミノルタジャパン(株)、中央大学、日本ライフセービング協会、御宿町の4者の共同事業体により、世界初のカメラ画像解析による離岸流立ち入り自動検知システム開発に取り組み（H30）、令和元年度から本格稼働しました。
- ・観光・産業団体等が主体的に取り組む観光まちづくり事業を支援するため、観光振興推進事業補助金を創設しました（R1）。
- ・海水浴場で利用者が緊急事態を知らせることができるSOSボタンの実証が行われました（R1）。

【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】

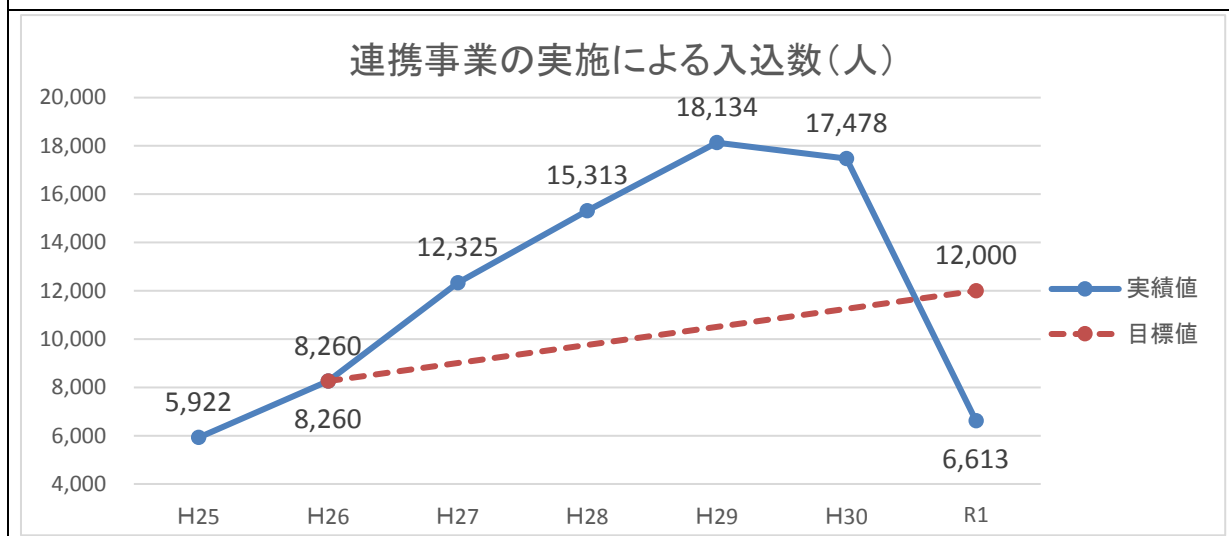
- ・お客様の消費スタイルが年々変化していることから、今までどおりの販売形態では、消費を喚起することができないため、どのような工夫で消費を促せるかが課題と考えています。
- ・オリンピックを契機とした地域振興策が課題と考えています。
- ・御宿町はゴールデンウィークにイベントがなく宿泊閑散期となっています。

【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】

- ・例えば「手ぶらで楽しめるビーチ」をコンセプトに、消費者が利用しやすいセット価格の導入等を検討していきます。
- ・キャッシュレス決済の導入やトイレのウォシュレット化など、若年層や外国人観光客に対して必要な受け入れ体制の整備を支援していきます。
- ・参加型スポーツのほか有名選手が出場する大会を誘致することで、それらのファンの来訪につなげ、町内経済活動の活性化を図ります。
- ・夷隅エリア全体を地域資源として捉え、近隣団体と連携を図り、観光資源の提供を前面に出した誘客策を進めていきます。
- ・来訪者にとっては外房地域の地域資源は市町村に違いが見出しにくいいため、食の工夫をきっかけとして御宿町独自の目玉資源の創出を推進していきます。

施策：観光資源のネットワーク化と近隣自治体と連携した観光の魅力アップ						総合戦略 P13	
KPI：連携事業の実施による入込数						目標	担当課・班
(単位：人)						12,000	産業観光課 商工観光班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
5,922	8,260	12,325	15,313	18,134	17,478	6,613	

※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。おんじゆくまちかどつるし雛めぐりのような、他地域との連携事業の入込客数をカウントしています。

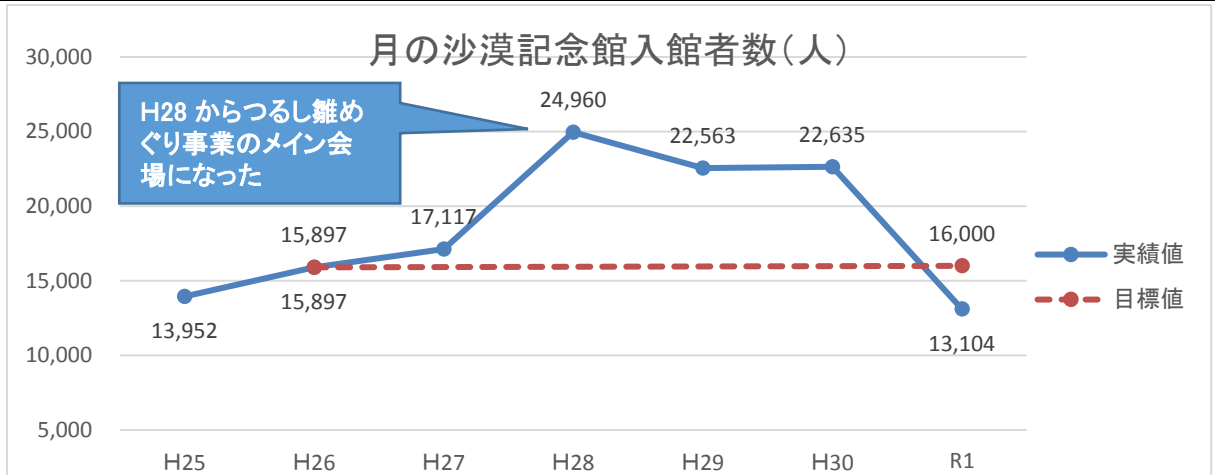


これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おんじゆくまちかどつるし雛めぐり」を「かつうらビッグひなまつり」と合同開催し、市町合同スタンプラリーの実施や、両イベント会場をつなぐバスを運行しました（H27～）。 ・中房総広域観光推進ネットワーク協議会や外房観光連盟と連携した観光キャンペーンを実施しています。 ・おんじゆくまちかどつるし雛めぐりは、毎年違ったテーマを掲げてリピーターを増やすことができているほか、多くのボランティアの協力により事業に成長が見られます。 ・令和元年度もつるし雛めぐりを開催したものの、新型コロナウイルスの影響により、入込数は前年比 62.2%減となりました。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な連携を進めるうえで、小さな地域の中にある市町村のカベを取り払い、利用者目線に立った公共施設の活用が課題と考えています。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣団体と連携をとり、他市町村のイベントでも駐車場などの公共施設を協力し合うなど、地域全体として目的を共有し、市町村の区別なく地域を楽しんでもらえる工夫を行っていきます。

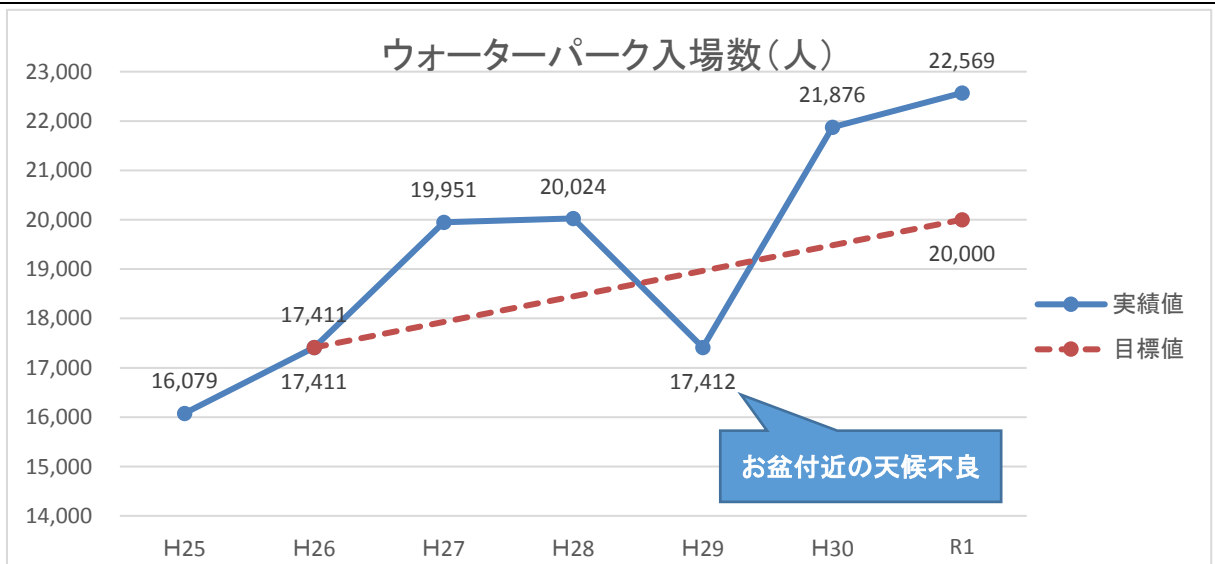
施策：観光資源の発掘と時代のニーズに対応した取組み						総合戦略 P14	
K P I：月の沙漠記念館入館者数 (単位：人)						目標	担当課・班
						16,000	産業観光課 商工観光班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
13,952	15,897	17,117	24,960	22,563	22,635	13,104	

※太線で囲んだ年度の数值は、目標設定時の現状値です。



K P I：ウォーターパーク入場数 (単位：人)						総合戦略 P14	
K P I：ウォーターパーク入場数 (単位：人)						目標	担当課・班
						20,000	産業観光課 商工観光班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
16,079	17,411	19,951	20,024	17,412	21,876	22,569	

※太線で囲んだ年度の数值は、目標設定時の現状値です。



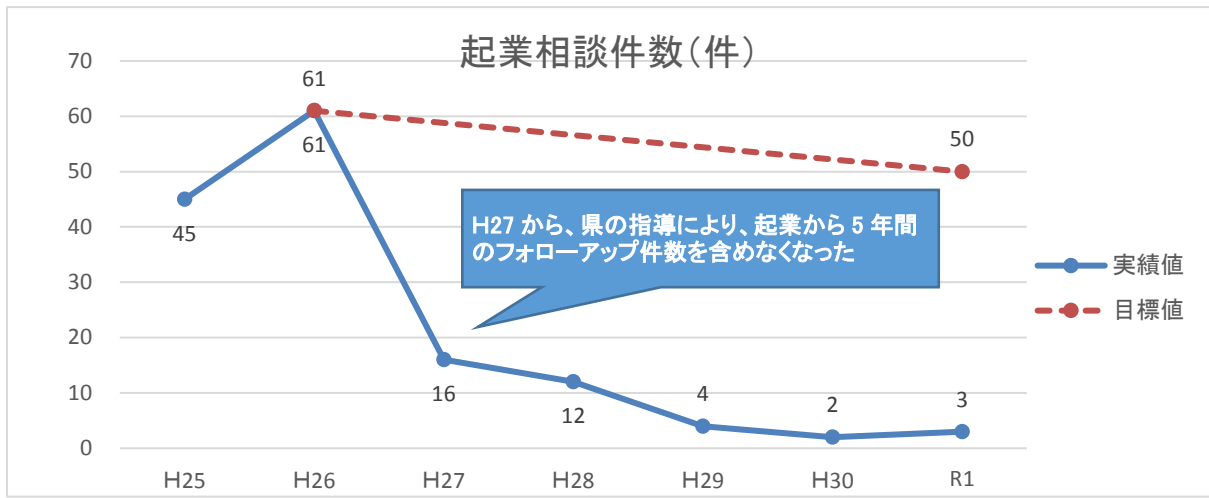
御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート

これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <p>〔月の沙漠記念館〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内のトイレを洋式化し、利用者の利便性向上を図りました（H27）。 ・おんじゅくまちかどつるし雛めぐり事業のメイン会場として活用し、来場者数の増を図りました（H28）。 ・ <p>〔ウォーターパーク〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メキシコにちなんだイベント「ONJUKU de メヒコ」を開催し、利用の付加価値を高め満足度の向上に努めました（H27～H29）。 ・町内だけでなく、夷隅郡市の小中学校にパンフレット、ポスターを配布し広報活動に努めました（H27～）。平成29年度からは招待券付とし、さらなる集客を試みました。 ・平成29年度は、繁忙期の天候不良により来場者数が減少しました。 ・町内の商店と連携し、半券の提示で割引等のサービスが受けられる取り組みを行い、商店への周遊のきっかけを作りました（H30）。 ・売店の価格を見直し、子どもたちの利用しやすい施設運営に努めました（H30）。 ・小イベントは常に新規企画の実施に取り組んでおり、多くの皆さまに楽しんでもらえるよう努めています。 ・御宿町内のみならず、外房地域の皆さまも楽しんでいただける施設として認識されてきました。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にウォーターパークは外房エリアで希少なプール施設となっており、広域的なレジャー施設としての役割は高くなってきています。その役割を担って経営を維持していくために、様々な工夫と経営努力が必要となります。また、お客様のリピートを期待するうえで、常にイベントの充実に取り組む必要があります。 ・これらレジャー施設、文化施設と町内商店、いずれかがきっかけとなって町内消費を促していける仕組みづくりが必要と考えています。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設と町内商店が連携・協力しあい、お互いに利点があり、町内での消費のループが創出される取り組みを進めていきます。 ・公共施設の外房エリアとしての役割を担うため、施設を維持していくにふさわしい、稼げる経営努力をしていきます。

施策：商工業の振興と新たな取り組みへの挑戦						総合戦略 P17	
KPI：起業相談件数						目標	担当課・班
(単位：件)						50	産業観光課 商工観光班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
45	61	16	12	4	2	3	

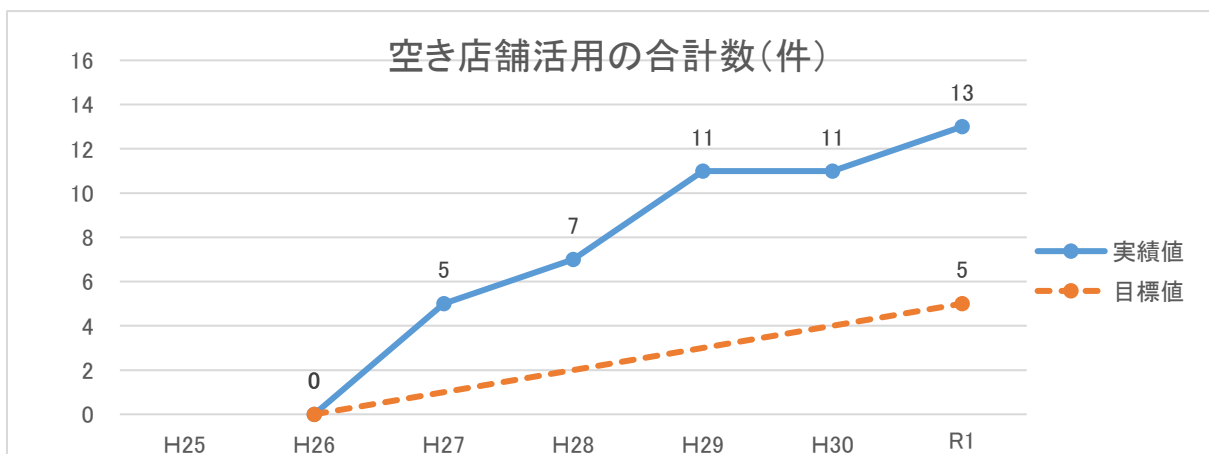
※太線で囲んだ年度の数值は、目標設定時の現状値です。商工会への創業相談件数をカウント。



KPI：空き店舗活用の合計数						目標	担当課・班
(単位：件)						5	産業観光課 商工観光班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	5	7	11	11	13	

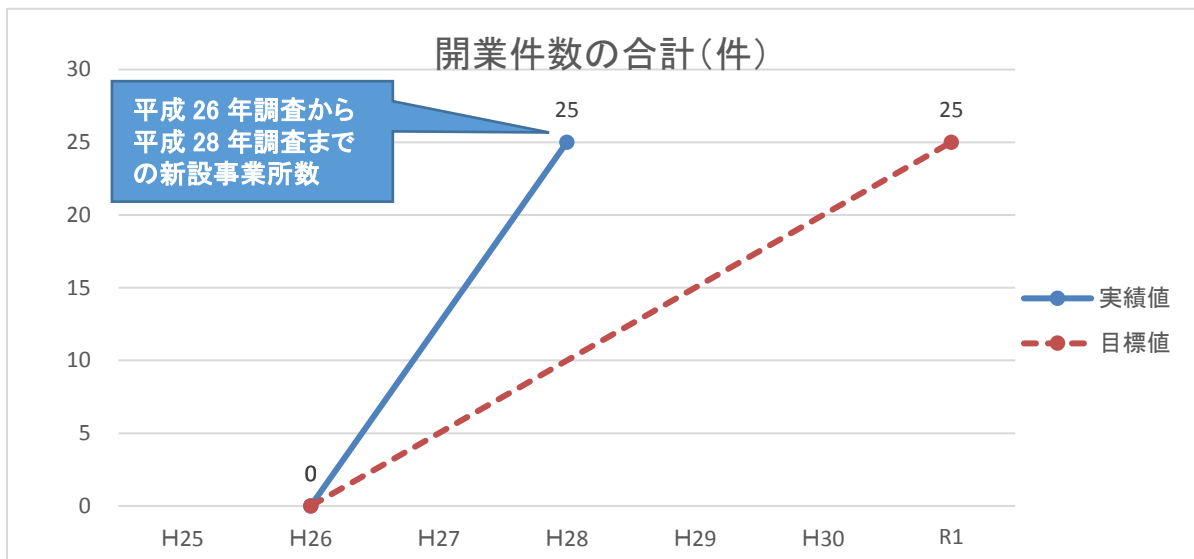
※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数值はそれまでの累計です。

「空き店舗活用」：閉店した店舗が他のオーナーにより活用された例。客観的な統計資料がないため、関係者ヒアリングにより把握した件数をカウント。



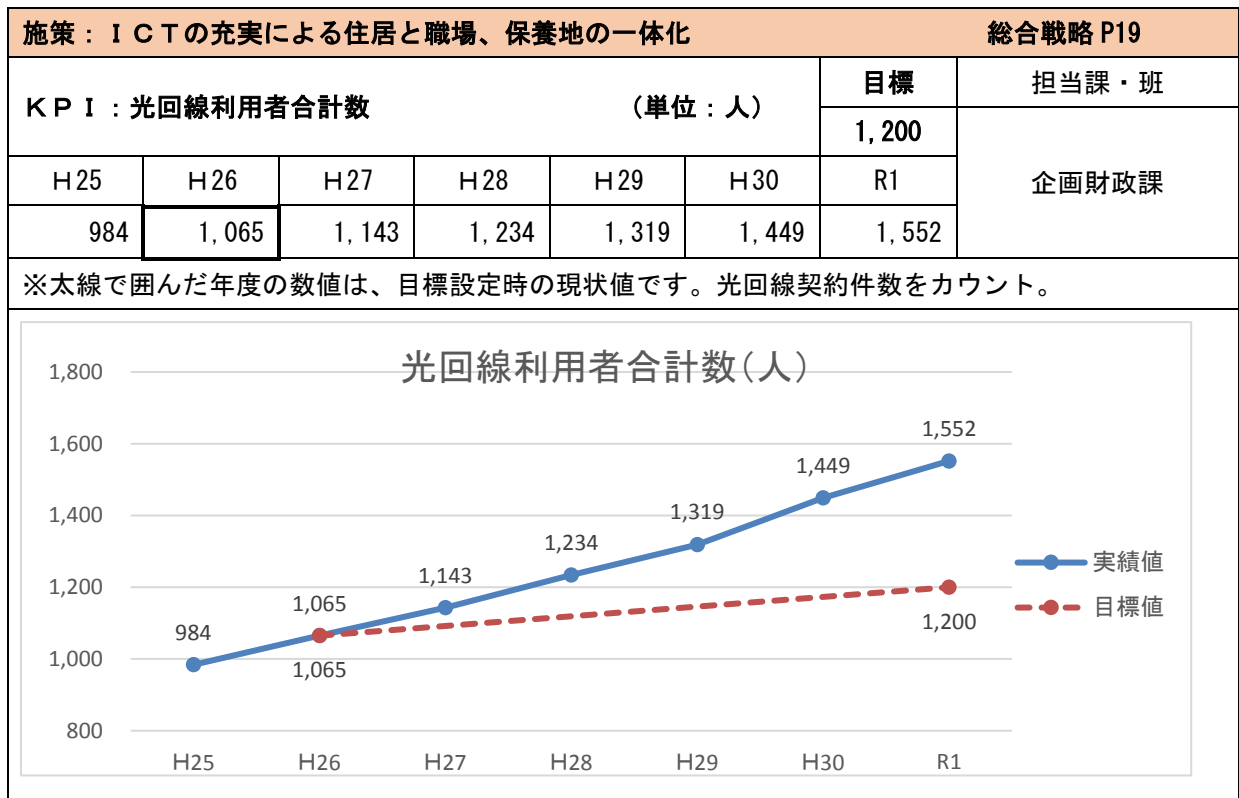
KPI：開業件数の合計 (単位：件)						目標	担当課・班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	25	
-	0	-	25	-	-	R1	産業観光課 商工観光班

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。経済センサス基礎調査（H26）及び活動調査（H28）による。次回調査は令和元年度基礎調査で、結果公表は令和2年12月。



これまでの実施状況とこれからの方針

【主な実施事項】
・ 企業誘致及び雇用促進奨励金により、企業の町内への新たな立地や事業拡張を促進しています。
【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】
・ 上記奨励金は一定規模以下の小規模事業者は対象とならないこと。
【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】
・ 小規模事業者でも起業しやすい環境を目指すとともに、地域の「稼ぐ力」の向上に資する取り組みを推進していきます。

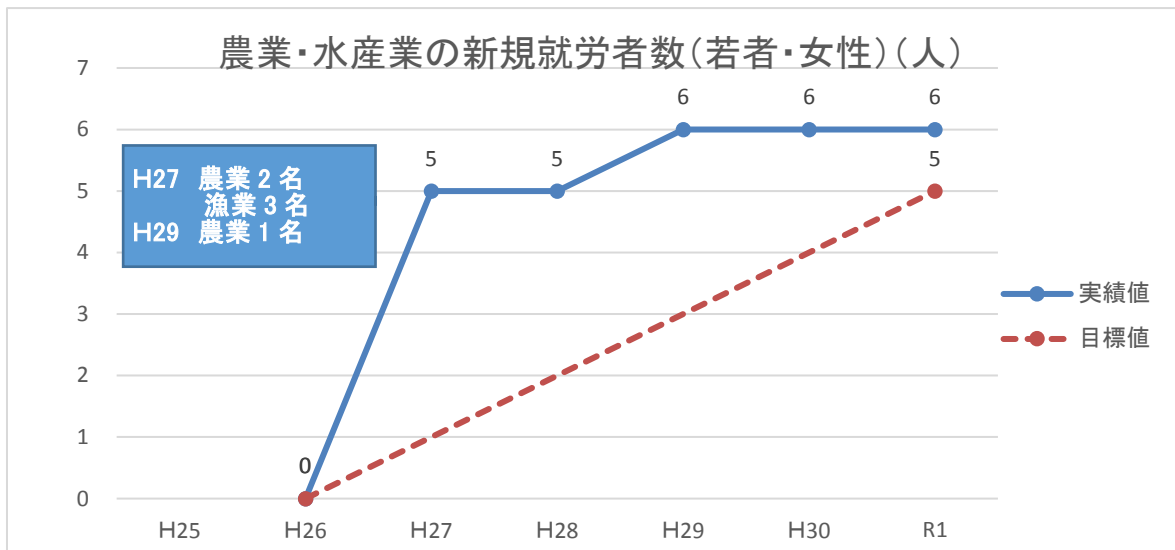


これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は公民館でのパソコン教室を行ってきましたが、利用者が順調に増加し目的を果たしたため平成 27 年度以降は特に利用促進施策は行っていません。スマートフォンの普及やプロバイダーとのコラボ企画ができたことで利用者は増加傾向にあり、平成 28 年度にはKPIである 1,200 人を達成しました。 ・以後も毎年 100 件前後の増加しています。 ・公共施設に Wi-Fi 設備を整備し、インターネット等の利用環境の整備を図りました（H26 以前：公民館、駅前観光案内所、月の沙漠記念館、月の沙漠記念館前広場、H27：役場庁舎）。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <p>今後、固定回線よりも通信速度の速い 5G（第 5 世代移動通信システム）のサービス開始が見込まれ、固定回線の需要への影響を見据える必要があります。</p> <p>設置からまもなく 10 年を迎え、設備の老朽化が懸念されます。「公設光ファイバーケーブル民間移行ガイドライン（総務省）」に基づき、民間企業への設備譲渡を検討します。</p>
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <p>当面は設備の維持に努めるとともに、社会情勢に応じた施策を講じていく必要があります。また、Wi-Fi エリア拡大について検討を進めます。</p>

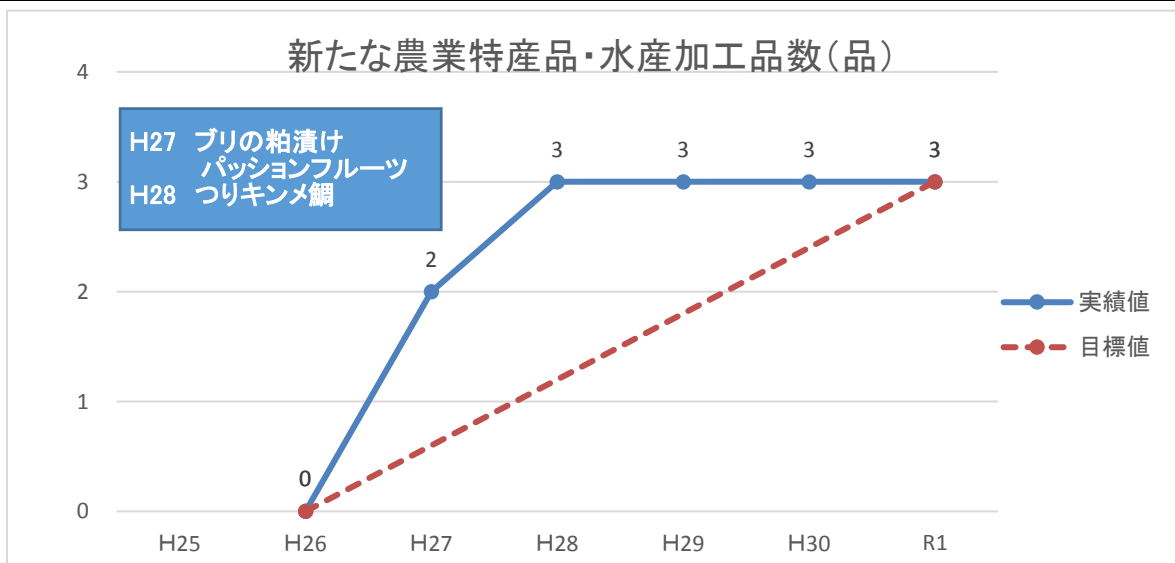
施策：農・水産業の持続と6次産業化の推進						総合戦略 P20	
KPI：農業・水産業の新規就労者数（若者・女性）（単位：人）						目標	担当課・班
						5	産業観光課 農林水産班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	5	5	6	6	6	

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



KPI：新たな農業特産品・水産加工品数						総合戦略 P20	
（単位：品）						目標	担当課・班
						3	産業観光課 農林水産班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	2	3	3	3	3	

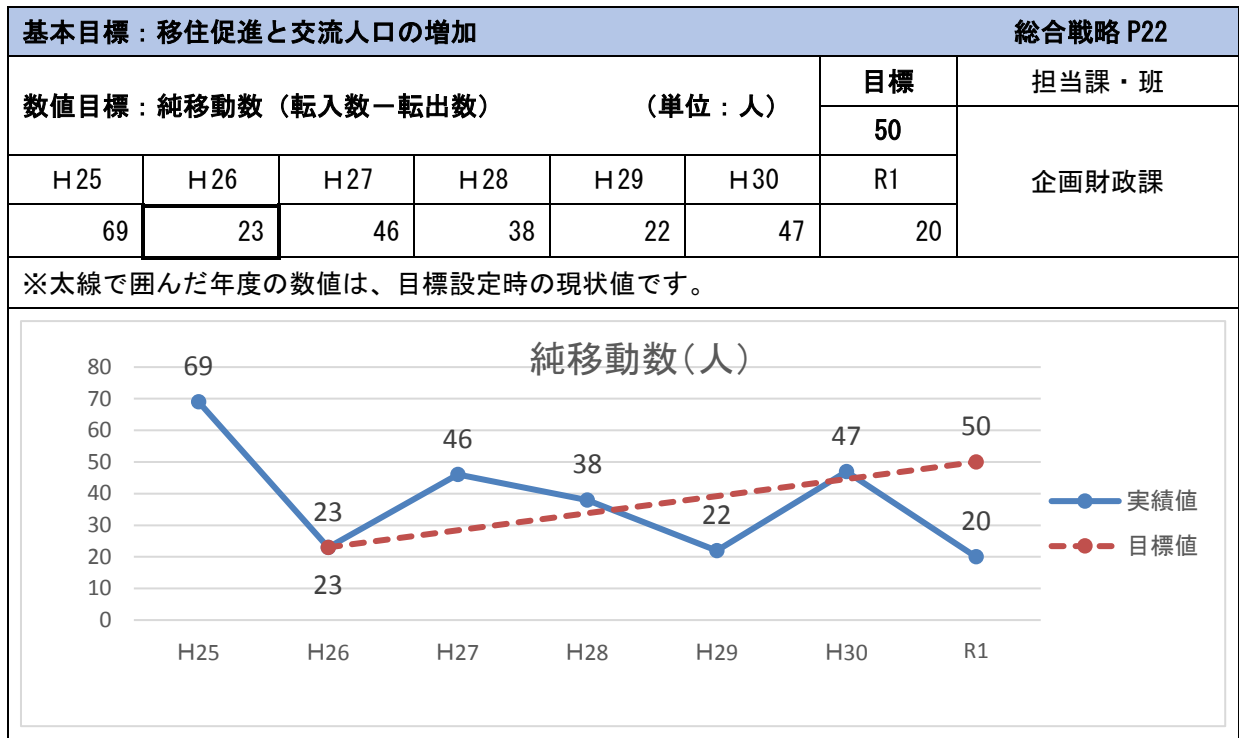
※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート

これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業生産基盤の整備にむけた中山間地域総合整備事業は、付帯工事や暗渠排水整備を進めています。 ・ 国の交付金を活用している新規就農者3名のうち令和元年度で給付を終えた2名は継続して農業を行い、後進の指導や教育をしていきます。 ・ 小型漁船漁業就業者確保育成事業を活用して、これまで3名が漁業研修を受けましたが、就業にはつながっていません。 ・ 有害鳥獣対策として、町単独の電気柵等設置補助制度を設けた（H27）ほか、捕獲に必要なわな免許取得費用補助の限度額の増額（H29）、電気止め刺しの従事者への貸与（H29）を行うなど、有害鳥獣による農作物被害防止に努めました。平成30年度からは、地域おこし協力隊員1名が調査研究を行い、被害対策アドバイスをを行いました（令和元年5月まで）。 ・ アワビの資源回復を図るため、3,600個の魚礁を投入しました（H28）。継続的に調査し、魚礁の状況やアワビの育成状況を確認しています。 ・ 製品化に成功しているブリの粕漬は、直販以外にスーパーへの販路を拡大しているほか、野沢温泉村の道の駅でも販売しました。 ・ 千葉ブランド水産物である外房きんめ鯛を活用した「おんじゅく釣りキンメ祭り」は定着化し、広域PRを実施していきます。 ・ 畜産・酪農の収益向上を目指して町が支援しているクラスター事業が完了し（H30）、乳牛の増加や乳製品の開発により特産品の開発が期待されます。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収益性の低い小規模農家が存続していけないことが懸念される。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人・農地プランを作成し、担い手の確保や営農組合の設立に向けた取り組み、農地の集約等による農業施策を推進していきます。

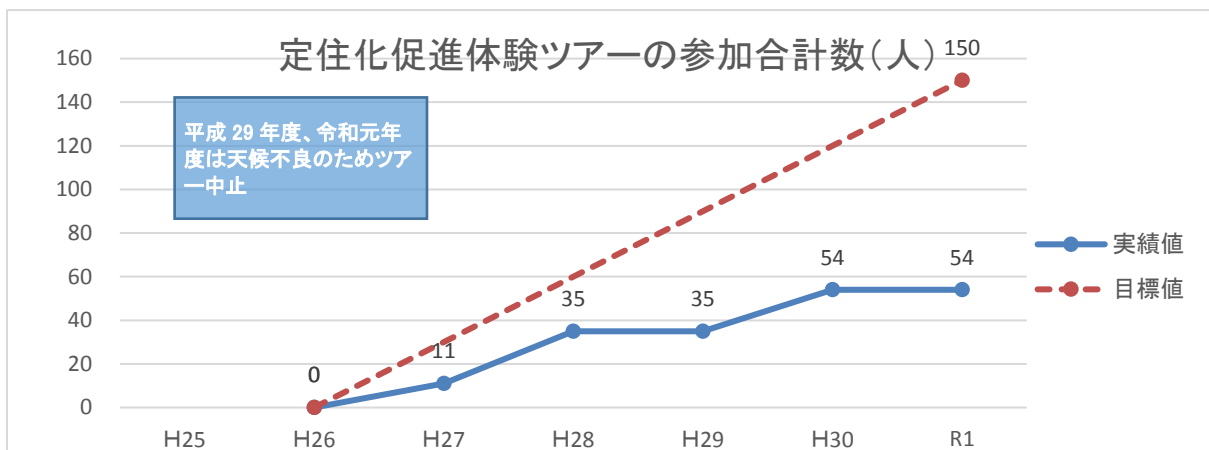


これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御宿町の魅力を県内外に広く伝え、移住促進だけでなく観光振興にもつなげるため、御宿町PR動画を作成しました（H28、H29）。動画は一定期間、都心の商業施設で放映したほか、現在はYouTubeの専門チャンネルと全国移住ナビで閲覧可能です（チャンネル登録46人。視聴3,304回（移住編））。 ・主に都市部で開催される合同移住イベントに積極的に参加しました（平成30年度は5回（相談受付114人、令和元年度は4回（相談受付29人））。その他に横浜で御宿町単独PRイベントを2回実施し、御宿町の知名度アップと魅力発信を図りました（H30。参加者22人。このうち1名が移住したと報告を受けています）。 ・地域おこし協力隊が「移住ガイドブック」を作成しました（H30）。 ・電話や窓口では年15件程度（令和元年度）の移住関連相談を受け付けています。相談内容は限られたものに偏らず、個々の事情それぞれです。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の性質上、施策の効果が短期間で発現しにくく、移住にいたるまでは様々なきっかけがあり、施策の効果がどの程度移住や拠点居住につながったかを測定することが困難です。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町外の方がターゲットなので、ウェブやSNS、報道機関を効果的に活用して周知を重ねる。 ・地道なPR活動を続けることが重要だと認識している。

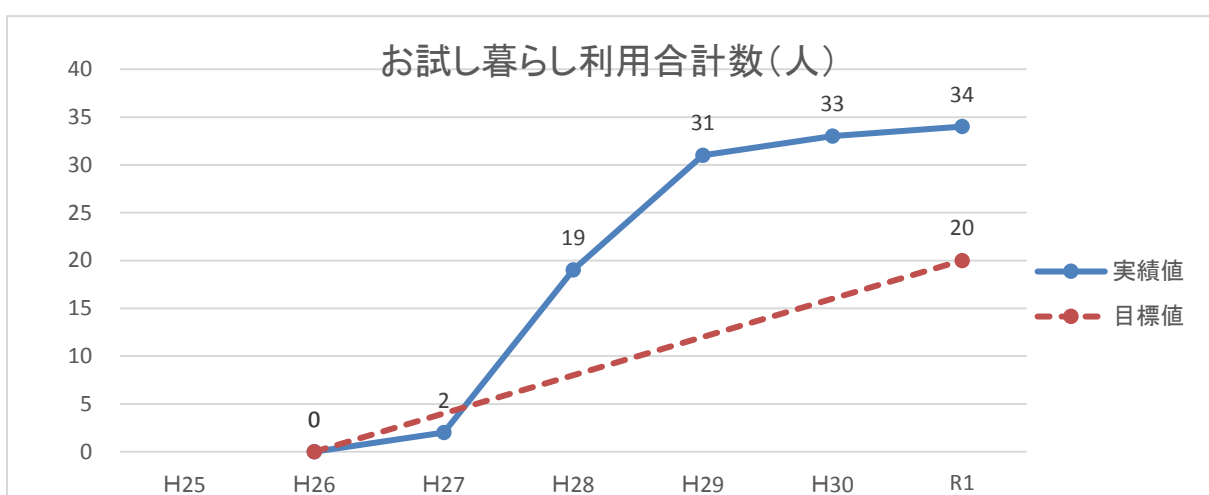
施策：若者の移住・定住化を促進						総合戦略 P22	
KPI：定住化促進体験ツアーの参加合計数 (単位：人)						目標	担当課・班
						150	企画財政課
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	11	35	35	54	54	

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



KPI：お試し暮らし利用合計数 (単位：人)						目標	担当課・班
						20	企画財政課
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	2	19	31	33	34	

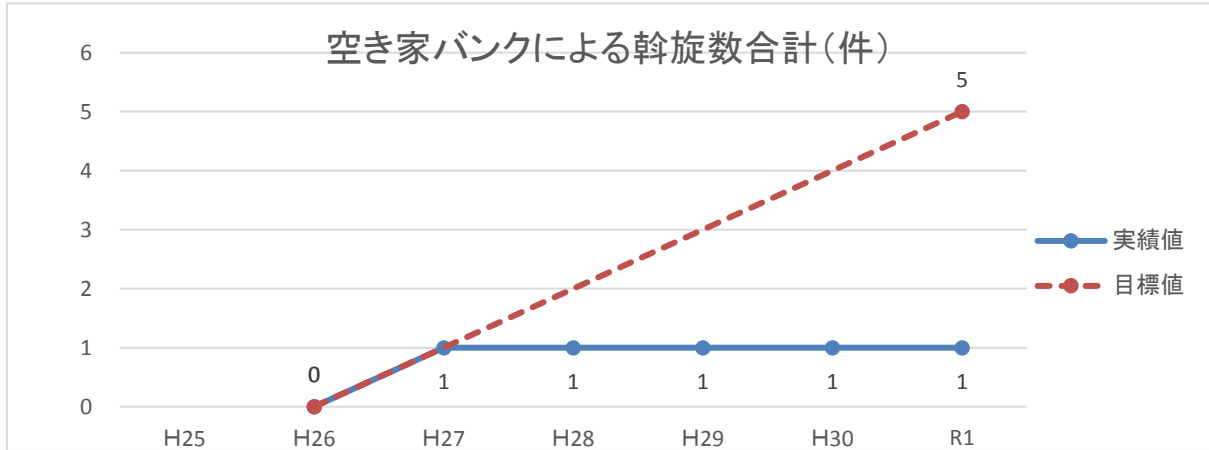
※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート

KPI：空き家バンクによる斡旋数合計 (単位：件)						目標	担当課・班
						5	企画財政課
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	1	1	1	1	1	

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



これまでの実施状況とこれからの方針

【主な実施事項】

- ・平成 29 年度までの体験ツアーは、日帰り漁師や農家の方との交流や町内店舗の散策を通して、御宿町の風土や食文化を体験していただきました。参加者の方のうち移住された方の把握はできておりませんが、参加者にアンケートを実施して移住先に求めるニーズを把握し今後の施策展開に活かしていきます。
- ・地域おこし協力隊による「御宿町サイクリングツアー」を企画しました（H30～R1。申込者なし。）。
- ・地方創生推進交付金を活用したウェブアンケートを実施して御宿町への移住に強い関心のある方を募り、東京での座談会と御宿町での体験ツアーを実施しました。都市住民が感じる御宿町の魅力、逆に足りないものなどについて意見を聞くことができました。
- ・お試し暮らし滞在費補助事業は、制度開始からこれまでに 34 名の利用があり、このうち実際に移住した方もいます。移住へつながるケース割合が高く、効果のある施策といえます。平成 30 年度には補助対象となる施設にゲストハウスを新たに指定しています。
- ・空き家バンク制度は、成約まで進んだのは 1 件のみです。移住希望者からの相談（購入または賃貸）は月 1 回程度あるものの、売り手、貸し手からの相談はほとんどありません。

【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】

- ・定住化促進体験ツアーは、より魅力ある企画にするため町民や民間企業の力を活用したいが、業務を請けていただける適切な団体が町内から見つからず苦慮しています。ツアーを全国展開している業者もありますが、住民との交流が生まれにくいのではないかと懸念があるほか、費用が高くなります。

御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート

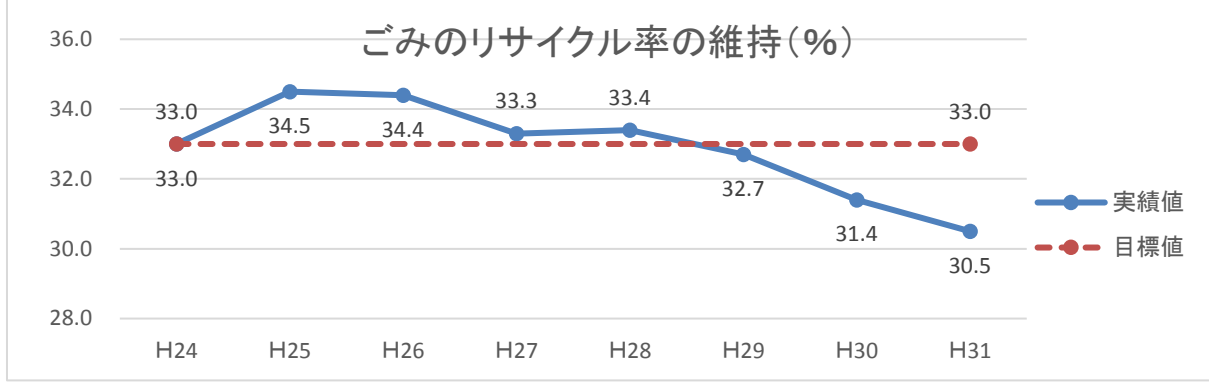
- ・お試し暮らし滞在費補助事業は、利用者と個別にヒアリングを行うため、移住検討度の高い参加者が多い傾向です。しかし、現在指定施設がゲストハウスのみのため、志向の合わない利用希望者は利用をためらう事例がありました。
- ・空き家バンクは、売り貸しの相談自体が少ない一方で、不動産会社を通して市場には物件が出ている状況があります。買い借りについては、登録者もあり、相談も月1~2回あるため、制度需要の高さを周知する必要があると考えます。

【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】

- ・体験ツアーについては、PRイベントなどで御宿町を広く周知することと併せて、少数でも御宿町または外房地域への移住を強く希望している方が参加できるような企画を続けていきます。民間のアイデア、行動スピード、人脈等を活用できるよう工夫をしていきます。
- ・お試し暮らし滞在費補助事業については、利用希望者が利用しやすい受け入れ態勢を整えていくことに加えて、制度の周知を図っていきます。
- ・空き家バンク制度は、制度の周知により空き家の有効活用を図っていきます。

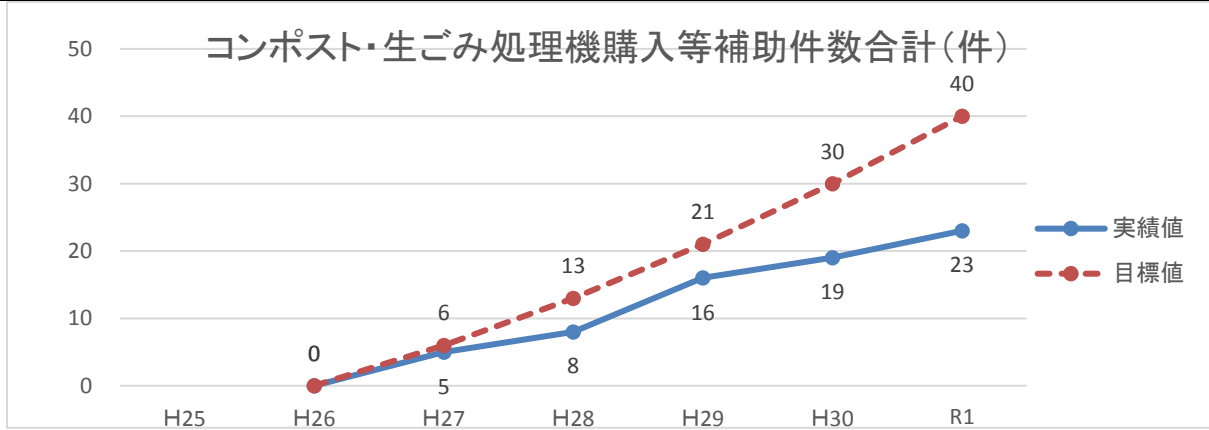
施策：豊かな自然環境の活用と生活環境づくり						総合戦略 P24	
KPI：ごみのリサイクル率 (単位：%)						目標	担当課・班
						33.0	建設環境課 じん芥対策班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
34.5	34.4	33.3	33.4	32.7	31.4	30.5	

※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



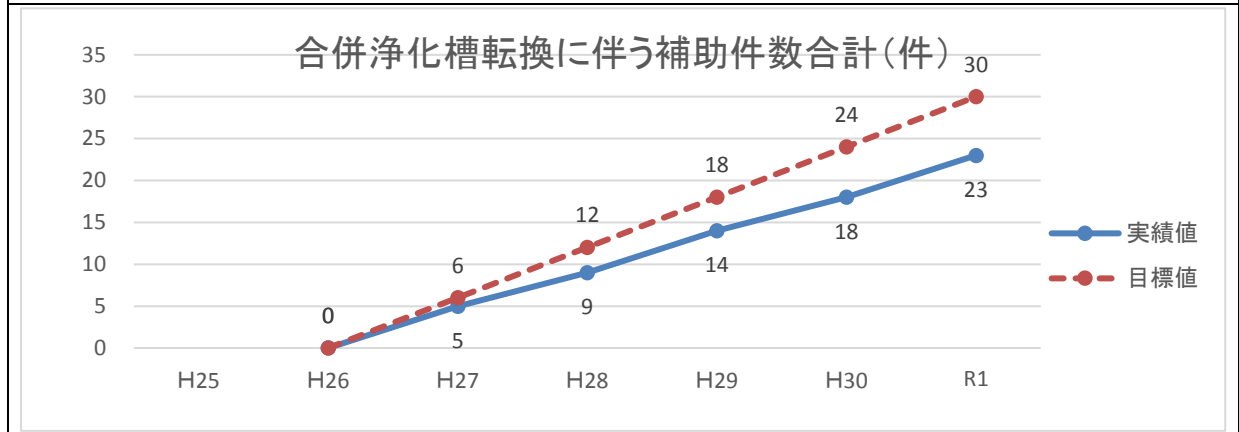
KPI：コンポスト・生ごみ処理機購入等補助件数合計 (単位：件)						目標	担当課・班
						40	建設環境課 建設環境班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	5	8	16	19	23	

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



KPI：合併浄化槽転換に伴う補助件数合計 (単位：件)						目標	担当課・班
						30	建設環境課 建設環境班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	5	9	14	18	23	

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。

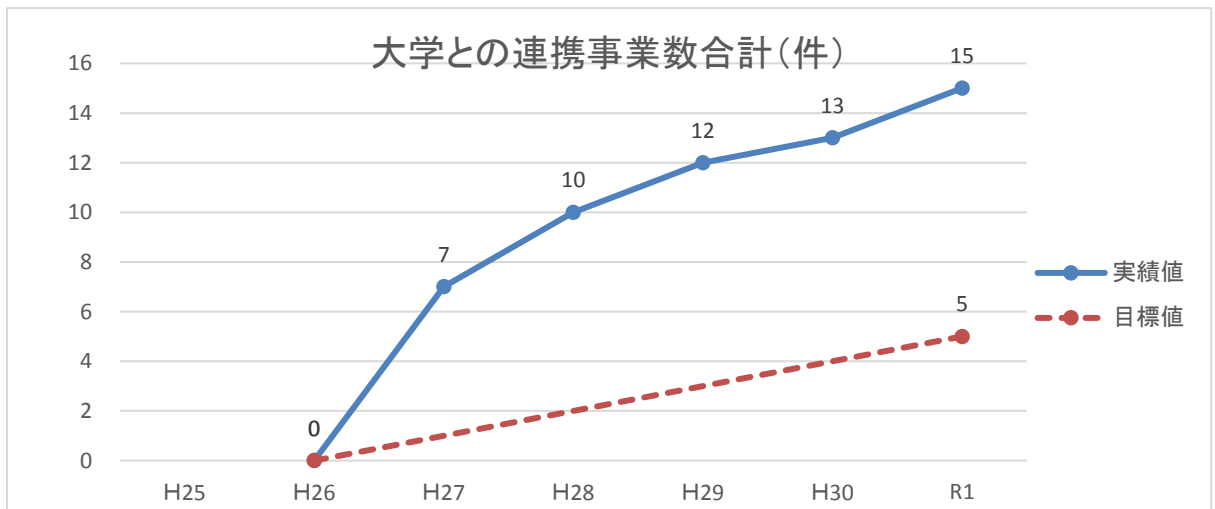


これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル率については、地域との協働による古紙回収、ごみの分別などの実施により、県平均を上回っていますが、全体の収集量の増加等のため、リサイクル率は減少しています。 ・町民清掃、海岸清掃、海岸クリーンキャンペーンを実施し、町民と協力して環境美化に努めています。 ・不法投棄を防止するため、看板の設置や監視員によるパトロールを実施しています。 ・地球温暖化防止策として、住宅用省エネルギー設備等の設置補助、生ごみ処理機やコンポストの設置、購入補助を実施しています。 ・河川や海の汚濁防止として、合併浄化槽への転換補助を実施しています。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化や人口減少により、資源ごみ収集に係る担い手が減少しています。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報協働事業を通じ、リサイクル意識の啓発強化を行います。 ・コンポストや合併浄化槽転換についても、広報等により環境負荷軽減に対する意識の醸成に努めます。

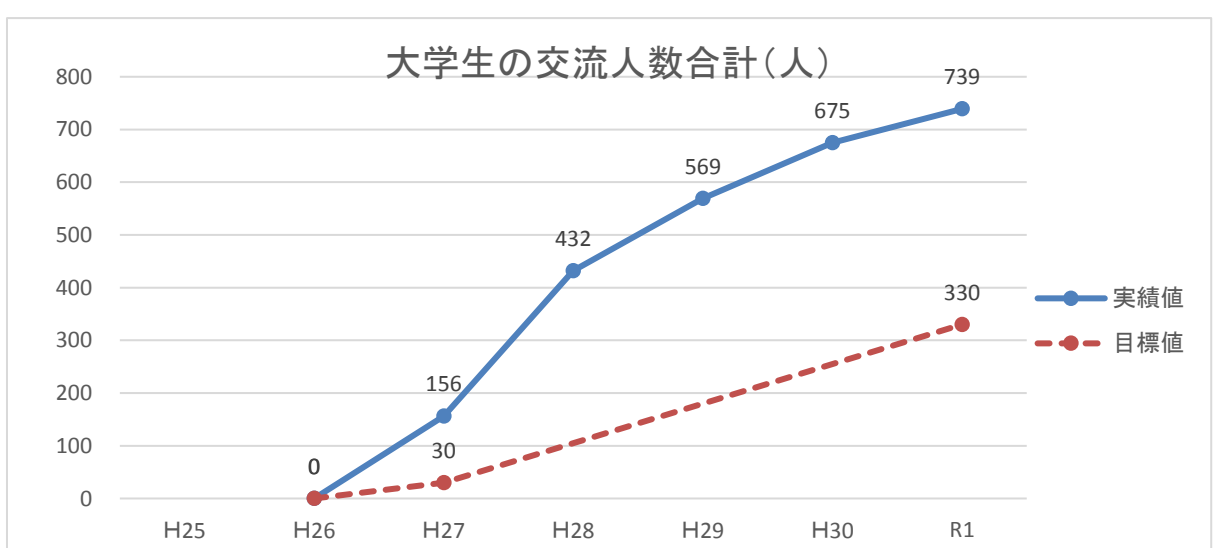
施策：大学との連携による地の拠点づくり						総合戦略 P26	
KPI：大学との連携事業数合計 (単位：件)						目標	担当課・班
						5	企画財政課
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	7	10	12	13	15	

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



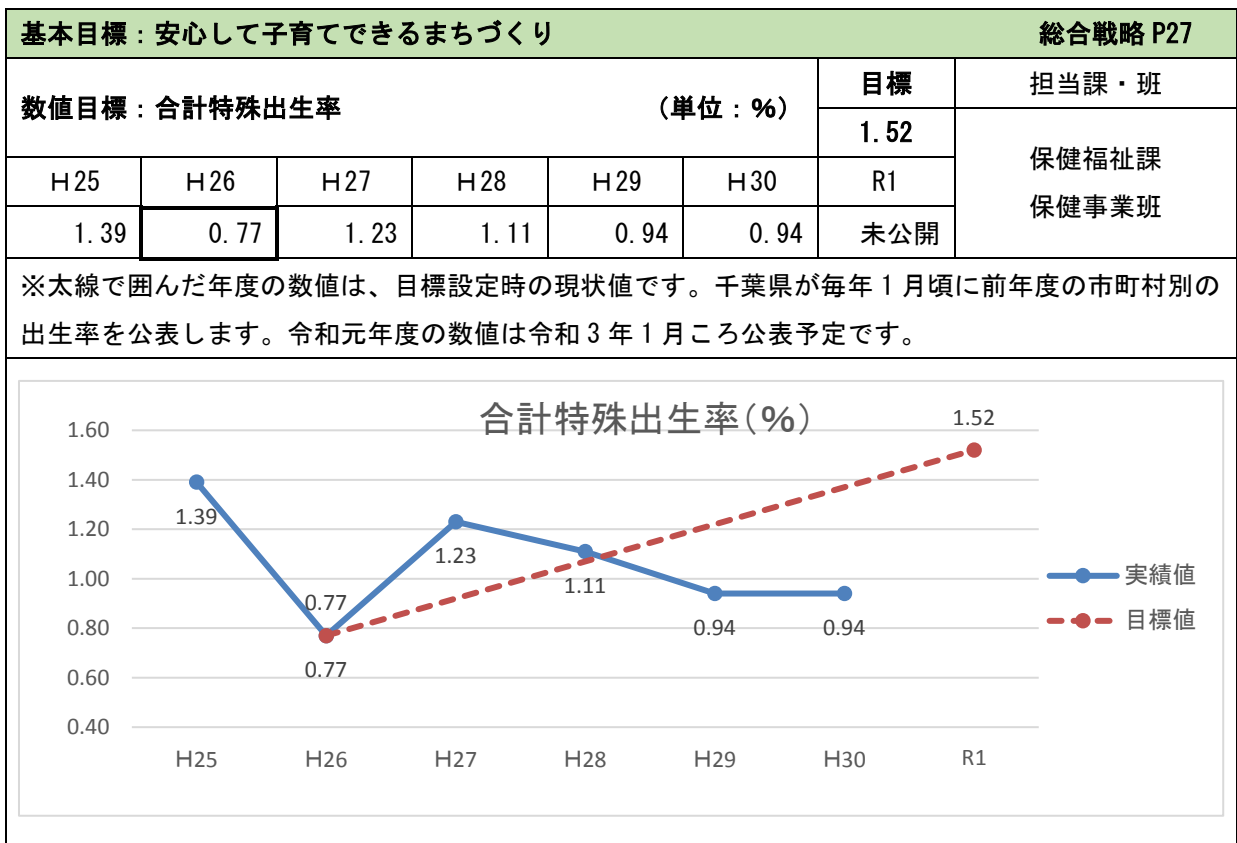
KPI：大学生の交流人数合計 (単位：人)						目標	担当課・班
						330	企画財政課
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	156	432	569	675	739	

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <p>・地域の大学と連携・協力体制を築き、まちづくりや生涯学習、教育、保健事業、スポーツなど様々な分野で大学の知的、人的資源の活用を図っています。</p> <p>千葉工業大学：ON19 サミット、大型多言語看板デザイン、星空教室、メキシコ学生交流</p> <p>国際武道大学：ライフセービング学習、健康体カチェック</p> <p>拓殖大学：ライフセービング学習</p> <p>城西国際大学：公民館出前講座</p> <p>神田外語大学：メキシコ学生交流</p> <p>工学院大学：ビーチタウン調査</p> <p>三育学院大学：健康づくり事業、CCRC、寄茶場（よっちゃば）</p> <p>中央大学：離岸流立ち入り自動検知システム開発</p> <p>千葉大学：健康づくり（コホート研究）</p>
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <p>・より横断的かつ柔軟に大学の知的、人的財産を活用していく必要があります。</p>
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <p>・大学との協働施策の経験を積むことで、互いが協力しやすい仕組みの構築に取り組んでいきます。</p>

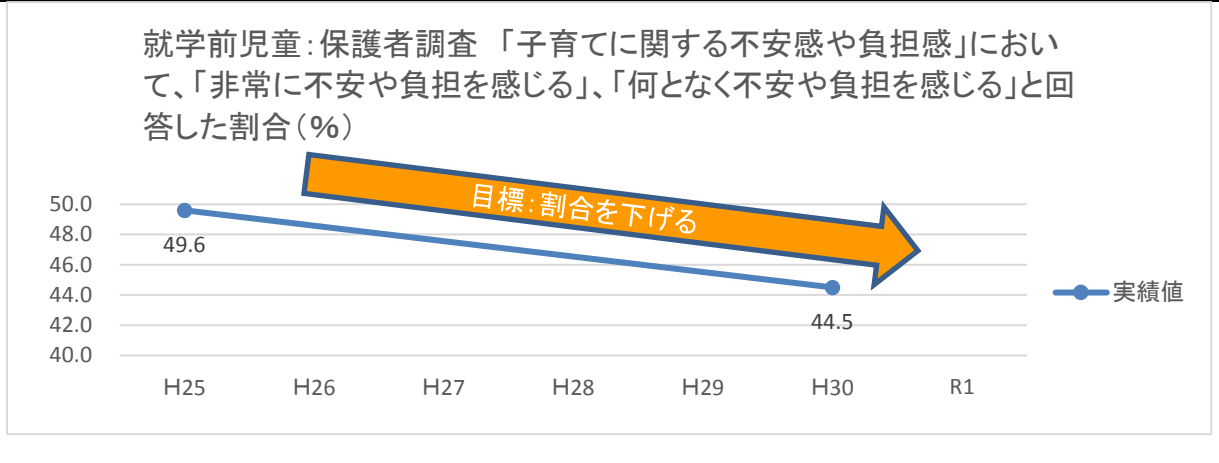


これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども医療費助成について所得制限を撤廃し、すべての児童を対象としました (H28)。 高校生等医療費助成制度を開始しました (H28)。 児童インフルエンザの予防接種費用の助成を開始しました (H28)。 母子健康手帳アプリを活用した「保健・子育て情報配信サービス」を開始しました (H29)。 子育て相談の受付方法を電話、メールでも可能としました (H29)。 産後ケア事業を開始しました (H30)。 出産育児祝い金支給対象を第3子30万円から1子につき10万円にしました (H30) 風疹対策として、免疫力の低い世代の男性を対象に検査や予防接種を無料としました (R1)。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率はさまざまな要因（女性の晩婚化、夫婦共働き世帯の増、経済的安定性等）があり、さまざまな施策の総合的かつ長期的効果の結果によるもので、施策の効果の評価が難しい。 出生数の絶対値が少ないため、年による変動が大きい。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の施策と同調し、また町民の意見を十分に取り入れながら広域的に子育てしやすい環境を整え、それをアピールしていく必要があります。

施策：安心して子どもを産み育てることができる環境づくり						総合戦略 P27	
KPI：就学前児童・保護者調査「子育てに関する不安感や負担感」において、「非常に不安や負担を感じる」、「何となく不安や負担を感じる」割合 (単位：%)						目標	担当課・班
						割合を 下げる	保健福祉課 福祉介護班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
49.6					44.5		

※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。平成 25 年度及び平成 30 年度の「子ども子育て支援事業計画アンケート調査」から。

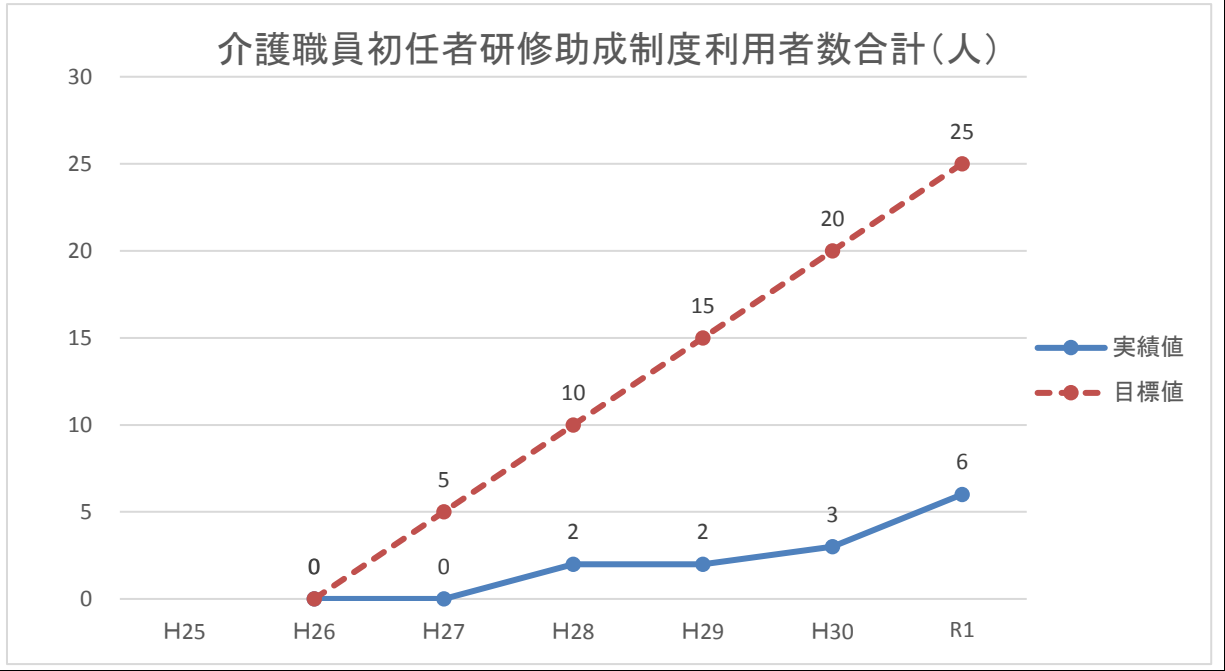


これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園内に子育て支援センターが新設されたことに合わせて、平日毎日開催し、利用者しやすい環境を整えました（H28 までは週 1 日のみ）。また、乳幼児に向けたイベント（誕生日月祝いなど）も充実させ、乳幼児とともに保護者同士の交流の場としても活用いただいています。 ・子ども医療費助成について所得制限を撤廃し、すべての児童を対象としました（H28）。 ・給食に御宿産米を提供し完全給食としました（H30）。 ・子育てと仕事の両立を支援するため、病児保育の受け入れが可能な医療機関と協力体制を築いています。 ・妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援を実施するため、行政内部における連携の強化を進めています。 ・幼児期の教育・保育無償化に合わせ、町独自の多子軽減や主食費の免除を行いました（R1）。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターは平日のみのため、イベントに参加できる人が限られてきます。子育て支援センターに通えない方と保育士や保護者同士のコミュニケーション不足を感じるとともに、それらの方からの細かな要望が把握できなく施策に反映できない心配があります。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に何でも相談できる仕組み、環境づくりに取り組み、子育てに対する不安の解消に努めていきます。

施策：仕事と家庭の調和の実現						総合戦略 P29	
K P I：介護職員初任者研修助成制度利用者数合計（単位：人）						目標	担当課・班
						25	
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	保健福祉課 福祉介護班
-	0	0	2	2	3	6	

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



これまでの実施状況とこれからの方針

【主な実施事項】
・ 介護職員の人材育成と移住促進を図るため、介護職員初任者研修費用に対し 10 万円上限に助成します。
【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】
・ 介護職員のなり手が少なく、人材の不足した状況が続いています。介護職員の不足がさらに介護現場の負担を増やしている状況です。
【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】
・ 積極的に制度周知に努めるとともに、国の制度も併せて周知していきます。

施策：特色ある教育活動の充実と安全で安心な学校づくり							総合戦略 P30	
K P I：海と山の子交流事業の継続							目標	担当課・班
							実施	教育課 学校教育班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		
実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	
<div style="text-align: center;"> <h3>海と山の子交流事業の継続</h3> <p>目標：継続実施</p> <p>実施 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1</p> </div>								
K P I：ライフセービング教室の実施							目標	担当課・班
							実施	教育課 学校教育班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		
実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	
<div style="text-align: center;"> <h3>ライフセービング教室の実施</h3> <p>目標：継続実施</p> <p>実施 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1</p> </div>								
K P I：磯観察会、なぎさマラソンの実施など							目標	担当課・班
							実施	教育課 学校教育班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		
実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	
<div style="text-align: center;"> <h3>磯観察会、なぎさマラソンの実施など</h3> <p>目標：継続実施</p> <p>実施 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1</p> </div>								

御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート

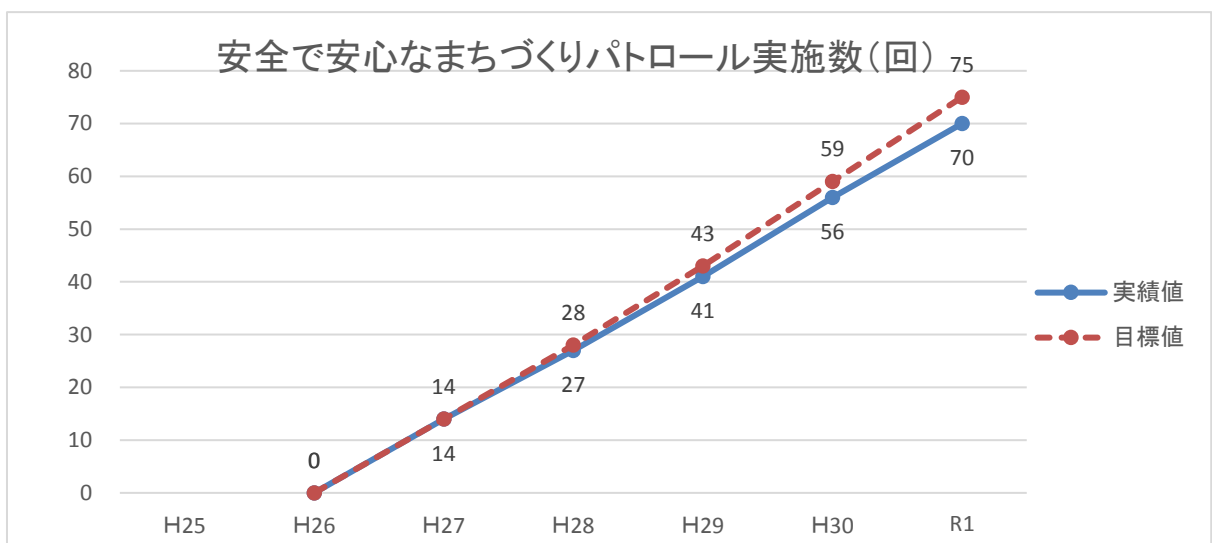
これまでの実施状況とこれからの方針

【主な実施事項】
<ul style="list-style-type: none">・海と山の子交流事業は、令和元年度の夏が第44回、冬が第45回を数える、伝統的行事となっています。50回目の実施に向けて、関係者の間でも機運が維持されています。・教育委員会とライフセービング協会が連携して、道徳、保健体育、社会、音楽、総合的な学習の時間を活用し、自他の命を大切にすることや命を守るための技能を習得する「命の海洋教育」を展開しています。ライフセービング学習はその取り組みの一環で、ライフセーバーの現場で実践されている技能などを取り入れ授業を行っています。・磯観察、なぎさマラソン等は、特色ある教育活動として継続して実施されてきています。他校に比べて種類、回数が多く、地域の歴史や文化に触れた体験学習により次代を担う子どもたちの教育を推進しています。
【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】
<ul style="list-style-type: none">・いずれの取り組みにおいても少子化の影響により、内容の変更（減）や時間の縮小などを検討している段階にあります。・ライフセービング協会との連携授業にあっては、町の観光事業任期付職員による貢献が大きく、任期後の人材登用に懸念があります。・磯観察、なぎさマラソン等については、英語教科が必修化となるなど授業時数が増える傾向にあり、そのためこのような独自の授業時間の減で調整せざるを得ない状況が見込まれます。
【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】
<ul style="list-style-type: none">・少子化に対応しながら、地域の教育財産を活用し地域との連携を生かした特色ある教育活動の展開に取り組んでいきます。

施策：地域全体で支え育てる環境づくり **総合戦略 P32**

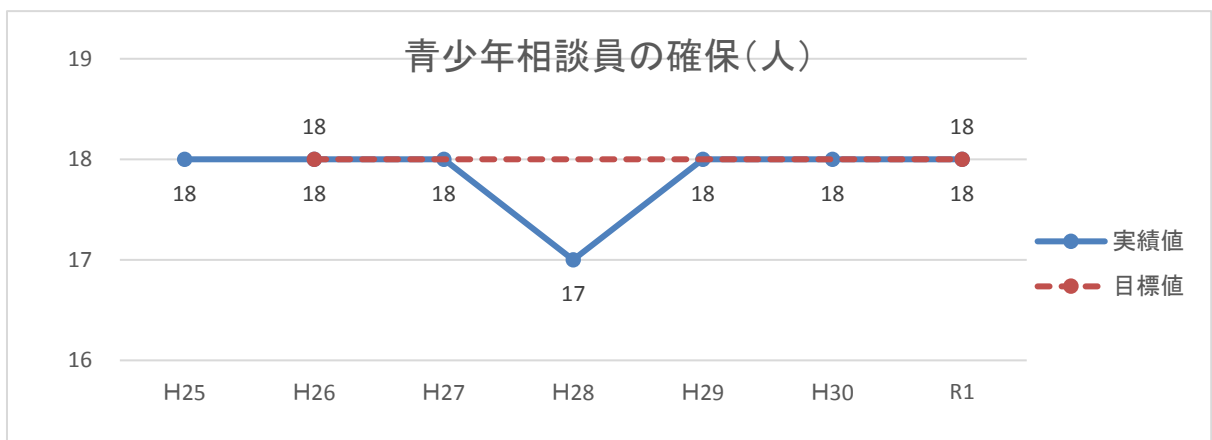
K P I : 安全で安心なまちづくりパトロール実施数 (単位: 回)						目標	担当課・班
						75	総務課 防災総合対策班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	0	14	27	41	56	70	

※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。S S T (安全安心まちづくり) パトロールと青少年相談員パトロールの実施回数をカウント。



K P I : 青少年相談員の確保 (単位: 人)						目標	担当課・班
						18	教育課 社会教育班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
18	18	18	17	18	18	18	

※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



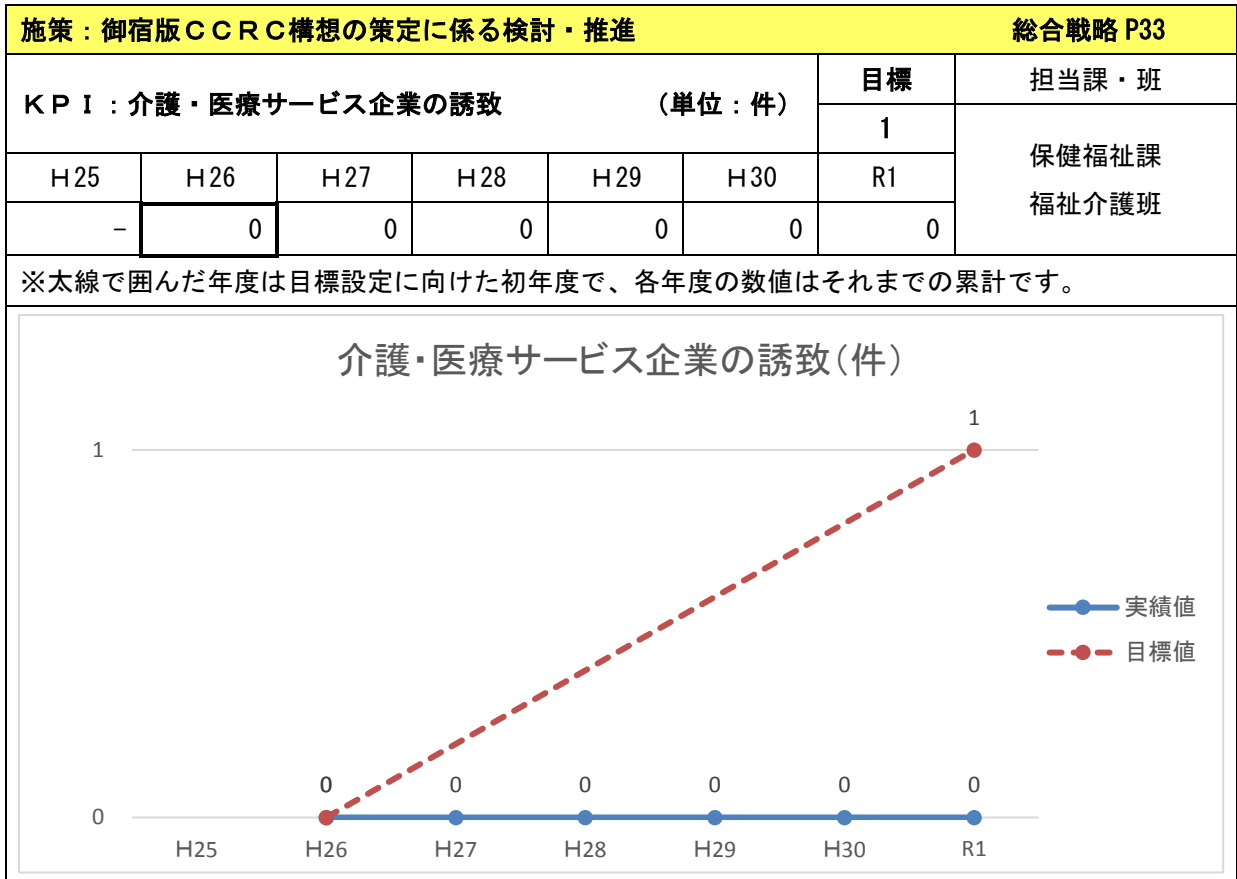
これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ S S T 全体会議を年 1 回開催し、各区の取り組み状況や警察からの情報を共有することで有効かつ効率的な活動につなげています。 ・ いすみ S S T 協議会の講習会に参加し、各区役員の防犯知識の習得を行っています。 ・ 青少年相談員パトロールは、毎年、浅間様七つ子参り及び夏季の海岸を定期パトロールしています。このほかにも、カーブミラー清掃、成人式の受付、ロドリゴ駅伝大会の支援、不審者対応など様々な活動を行っており、子育て家庭にやさしい生活環境づくりを担っています。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年相談員に関しては、年齢制限（20 歳から 45 歳）があることや、活動内容が多岐にわたり時間的制約が大きいことなどから、担い手が不足しています。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年相談員は、やりがいを感じられるようサポートするとともに、人材募集に関しては公平な人選に努めています。

基本目標：高齢者が安心して住み続けられる環境づくり						総合戦略 P33		
KPI：御宿版CCRCの導入						目標	担当課・班	
						事業実施	企画財政課	
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		
			構想策定	計画策定	事業実施	事業実施		
<p>御宿版CCRCの導入</p> <p>H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1</p>								

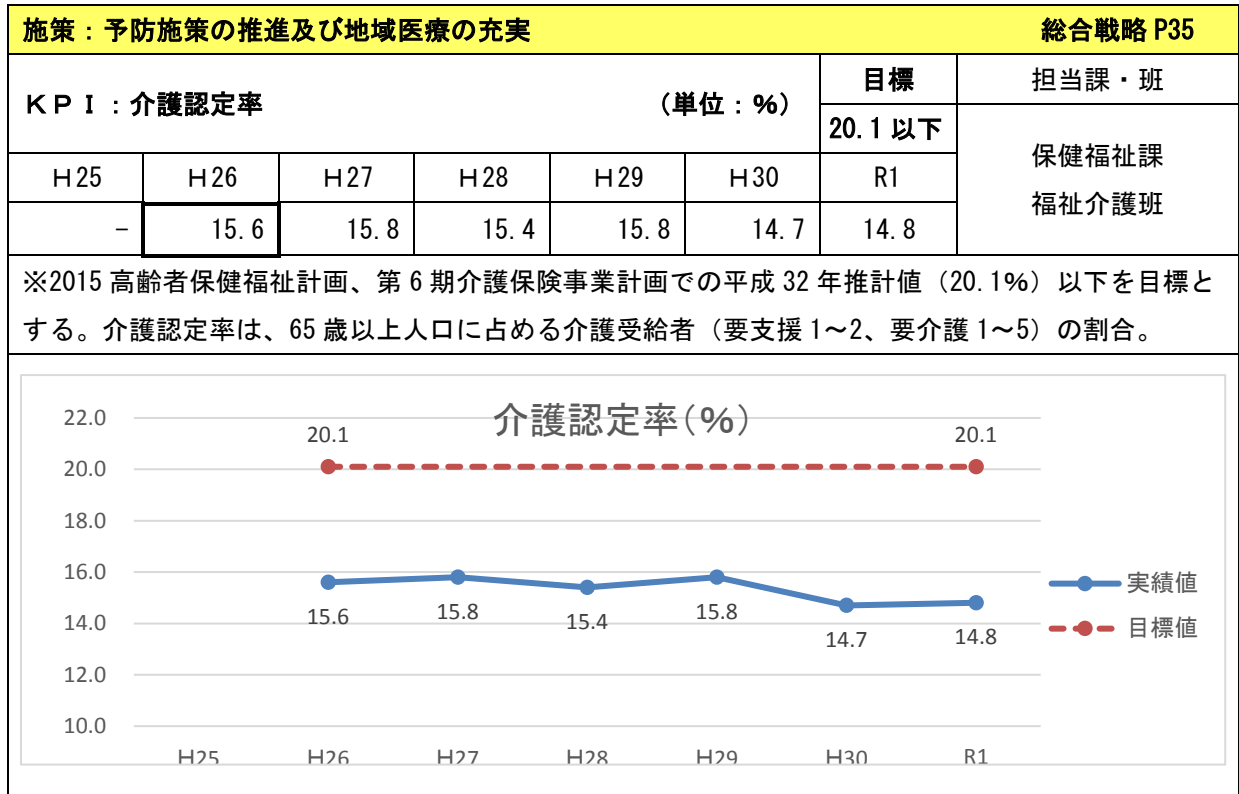
これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度に御宿版 CCRC 構想の策定を行い、平成 29 年度末には、その構想を実現するための地域再生計画が国に認定されました。また、計画を進める具体的事業に対して地方創生推進交付金の交付決定がありました。 平成 30 年度からは交付金の実施計画に基づきながら、令和 2 度までの 3 年間で CCRC 構想の実現に向けた取り組みを遂行していきます。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業を実施するにあたり、町や住民、団体などの多様な主体が連携して、御宿町に暮らす方や訪れる方が、心豊かに暮らせるまちを目指していますが、軸となる人材や団体がいないため、様々な事業を実施することによって育成、発掘を行っており、今後、軸となる人材や団体などが、一つの力となって自主的に事業を担うことにより、魅力的なまちになることが期待されています。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民と行政の協働により、計画事業を遂行していくほか、医療機関や介護事業者と連携して、御宿町を終の棲家とするための継続的ケアを受けることができる体制の整備などにより、地域住民と移住者が安心して暮らせるまちづくり、自立した持続可能なまちづくりを進めます。



これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度に、介護や福祉医療にかかる事業者に対してアンケートを行い、希望する事業者 8 社に対して地域課題や行政の支援メニュー、地域再生計画、福祉医療貸付事業などの説明を行い、事業用地候補になりそうな町有地を見学しました。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町の将来像を見据えた介護事業誘致方針が必要なため、検討を行っている。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護事業誘致方針を策定し、誘致セミナーの実施に向けて取り組みます。



これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護認定率は、KPI を達成しつつ、平成 29 年度以降は減少傾向にあります。 ・ 介護予防サポーター養成講座やスキルアップ研修を実施し、サポーターの養成に取り組んでいます。 ・ 夷隅郡市内の医療機関や、介護事業者などが集まる機会を設け、事例研究やワークショップなどを通して、機関同士の情報共有や連携強化を図っています。 ・ 介護認定相談時に、相談者の生活状況や利用目的などをヒアリングし、介護サービスの利用以前に他の制度で対応・補完が可能であれば案内することで、適切なサービスの提供を行っています。 ・ 介護受給権の更新時に介護サービスの利用履歴のない方については更新の必要の有無を確認し、適正な介護認定を図っています。 ・ 介護予防事業では、参加者がわかりやすく、継続しやすいよう「鶴亀クラブ」と「生活習慣予防・改善教室」をおんじゅくまち健康づくり教室「すこやか」に統一しました。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防サポーターの担い手が不足し、次の世代への入れ替わりが停滞している。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サポーター養成講座等の周知と実施に努め、地域で人材を支えあう環境づくりを推進していきます。

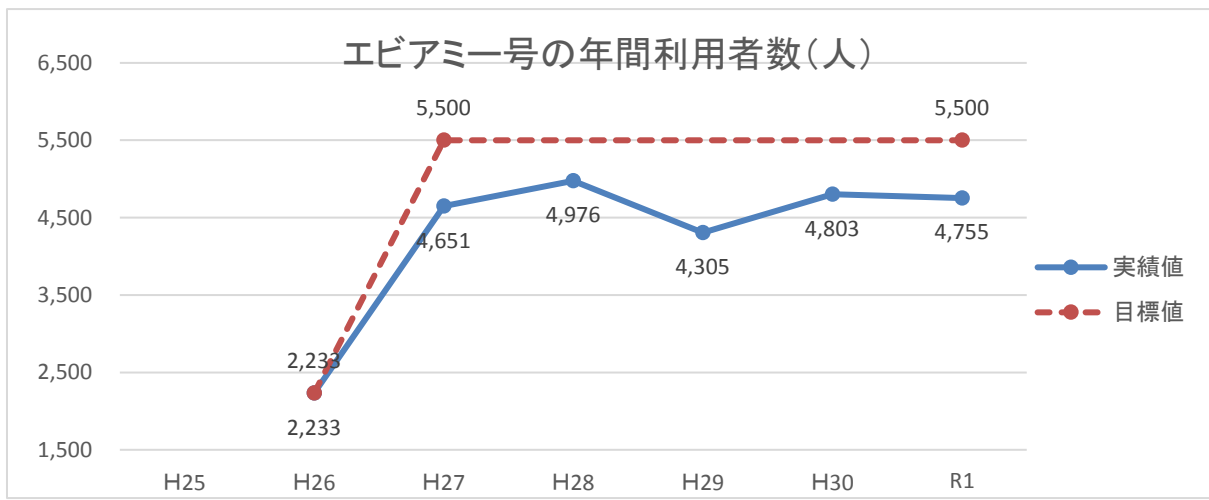
基本目標：好循環を支えるまちづくり							総合戦略 P36	
数値目標：公共交通利用者数 (単位：人)							目標	担当課・班
							524,500	企画財政課
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		
-	442,276	455,483	449,676	423,528	422,354	- (未公表)		
※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。御宿町乗合運行、JR御宿駅、民間路線バスの利用者の合計です。平成30年度では乗合運行4,803人、JR御宿駅41万1,720人(日平均564人乗車*往復*365日)、民間路線バス(小湊バスの勝浦御宿線)5,831人の合計42万2,354人。								
数値目標：自主防災組織の組織化率 (単位：%)							目標	担当課・班
							100%維持	総務課 防災総合対策班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		
-	100	100	100	100	100	100		
※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。								

これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <p>〔御宿町乗合運行（通称エビアミー号）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビアミー号単独でのKPIは年間5,500人ですが、平成30年度では4,803人（87.3%）となっています。 ・利用者の声を反映し、停留所を8か所から12か所に増設しました（H28）。 ・こども園の開園に合わせてこども園に停留所を新設しました（計13か所、H29）。 ・各運行時間帯を30分早め、鉄道利用者の利便性向上を図りました（H29）。 ・車両更新により自動乗降ステップ付となり利便性が向上しました（H30）。 ・車両の位置がウェブ上で確認できるシステムを導入し、待ち時間の不安の解消に努めました（H30）。 ・地域の移動をより便利にするため、エビアミー号利用者が同日にタクシーを利用した際の料金の一部を補助する「お出かけ支援」事業を開始しました（R1）。 <p>〔JR御宿駅〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR御宿駅単独でのKPIは年間51万1,000人ですが、平成30年度では41万1,720人（80.6%）となっています。 ・JRに関しては、以前より駐輪場を整備し主に学生の通学の利便性向上を図ってきました。平成29年度には月極利用のみだった駅前駐車場を一部時間貸しに整備し、駅の利便性向上を図りました。駅のバリアフリー化や電車ダイヤの利便性など、JRや国へ要望活動を実施しています。 ・町内から通学する高校生の定期代の30%相当額を補助する制度を開始しました（H30）。 <p>〔民間路線バス（小湊バスの勝浦御宿線）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小湊バス単独でのKPIは年間8,000人ですが、平成30年度では5,831人（72.9%）となっています。この路線は御宿駅と勝浦駅を結ぶ路線で、1日の運行本数は少ないものの、勝浦市の塩田病院を経由するため、病院を行き先とする利用者が一定数あると推測されます。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビアミー号の利用者数は横ばいで推移しており、新規利用登録者が月数件であることから、ほとんどがリピーターであることがわかります。 ・JR御宿駅利用者は年々緩やかな減少傾向にあり、それを受けて運行本数の減便などが実施された場合、さらに利用者が減るという悪循環が加速することが懸念されます。 ・小湊バスについても同様で利用者は減少傾向にあります。 ・公的交通機関を優先して充実すると、他の民間交通機関に影響を及ぼす可能性があります。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビアミー号に関しては、利用者数を増加させるには、一人当たりの利用回数を上げるか、新規利用者を増やす必要があります。前者は、生活習慣が変わらない限り増えないので、新規利用者を増やす取り組みが必要です。高齢者世代が利用者のボリュームゾーンであることから（登録者の平均年齢が66歳であることから想定）、高齢者をターゲットとした周知を図ります。 ・JR御宿駅に関しては、悪循環から脱却するために鉄道利用を促進する企画を他市町と連携して実施するなどして利用客を増やすほか、鉄道の利便性をアピールして普段の移動手段として利用を促進する施策を検討していきます。

施策：持続可能な地域公共交通の確保と利用促進						総合戦略 P36	
KPI：エビアミー号の年間利用者数 (単位：人)						目標	担当課・班
						5,500	企画財政課
H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
-	2,233	4,651	4,976	4,305	4,803	4,755	

※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の声を反映し、停留所を8か所から12か所に増設しました（H28）。 ・ こども園の開園に合わせてこども園に停留所を新設しました（計13か所、H29）。 ・ 各運行時間帯を30分早め、鉄道利用者の利便性向上を図りました（H29）。 ・ 車両更新により自動乗降ステップ付となり利便性が向上しました（H30）。 ・ 車両の位置がウェブ上で確認できるシステムを導入し、待ち時間の不安の解消に努めました（H30）。 ・ 地域の移動をより便利にするため、エビアミー号利用者が同日にタクシーを利用した際の料金の一部を補助する「お出かけ支援」事業を開始しました（R1）。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エビアミー号の利用者数は横ばいで推移しており、新規利用登録者が月数件であることから、ほとんどがリピーターであることがわかります。 ・ 公的交通機関を優先して充実すると、他の民間交通機関に影響を及ぼす可能性があります。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エビアミー号に関しては、利用者数を増加させるには、一人当たりの利用回数を上げるか、新規利用者を増やす必要があります。前者は、生活習慣が変わらない限り増えないので、新規利用者を増やす取り組みが必要です。高齢者世代が利用者のボリュームゾーンであることから（登録者の平均年齢が66歳であることから想定）、高齢者をターゲットとした周知を図ります。

施策：安全で効率的な公共施設運営						総合戦略 P38	
K P I：公共施設等総合管理計画の策定						目標	担当課・班
						策定	総務課 防災総合対策班
H25	H26	H27	H28 目標	H29	H30	R1	
-			策定				

※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

公共施設等総合管理計画の策定

● 実績値
-●- 目標値

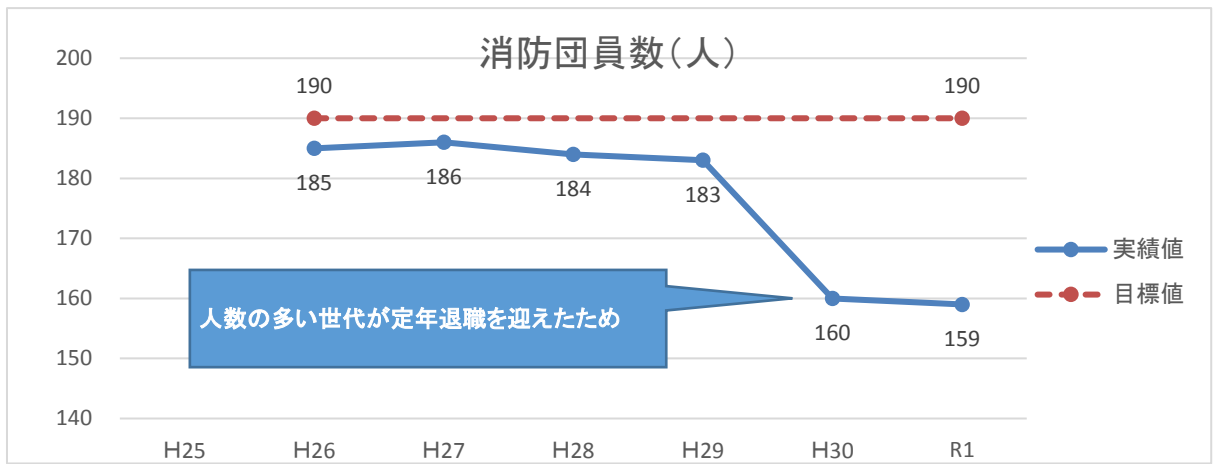
H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1

これまでの実施状況とこれからの方針

【主な実施事項】
<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等総合管理計画を平成 28 年度末に策定しました。 ・施設ごとの具体的な取り組みをまとめた行動計画として「公共施設等総合管理計画推進プラン」を策定しました（H29）。
【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】
【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】
<ul style="list-style-type: none"> ・この計画に基づき長期的な視点で公共施設等の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化し、施設の適正かつ効率的な運営を図っていきます。

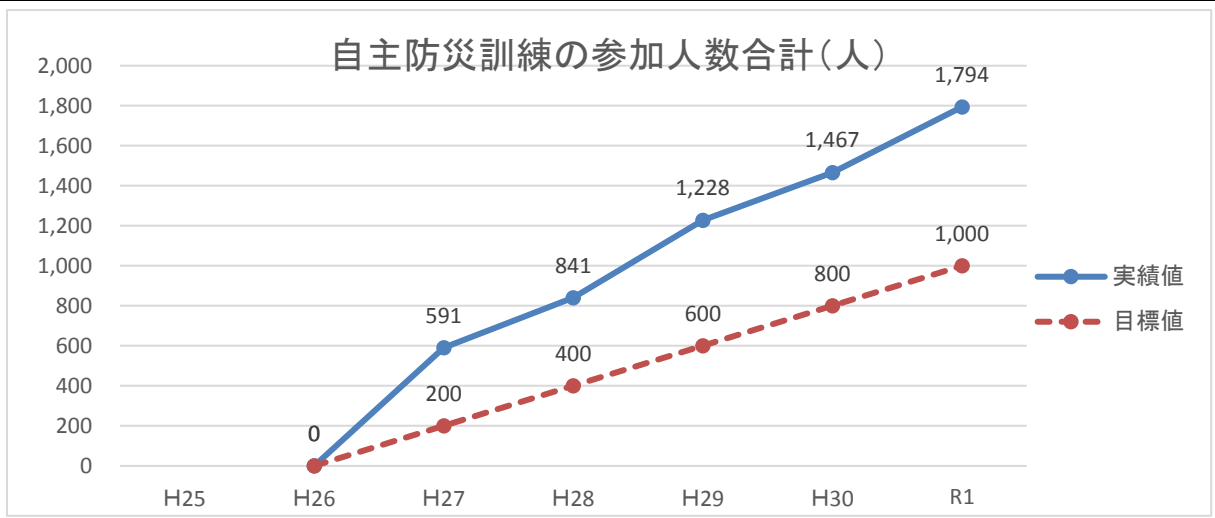
施策：消防団員の確保や自主防災組織の活動支援							総合戦略 P39	
KPI：消防団員数 (単位：人)						目標	担当課・班	
H25	H26	H27	H28	H29	H30	190	総務課 防災総合対策班	
-	185	186	184	183	160	R1 159		

※太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



KPI：自主防災訓練の参加人数合計 (単位：人)						目標	担当課・班
H25	H26	H27	H28	H29	H30	1,000	総務課 防災総合対策班
-	0	591	841	1,228	1,467	R1 1,794	

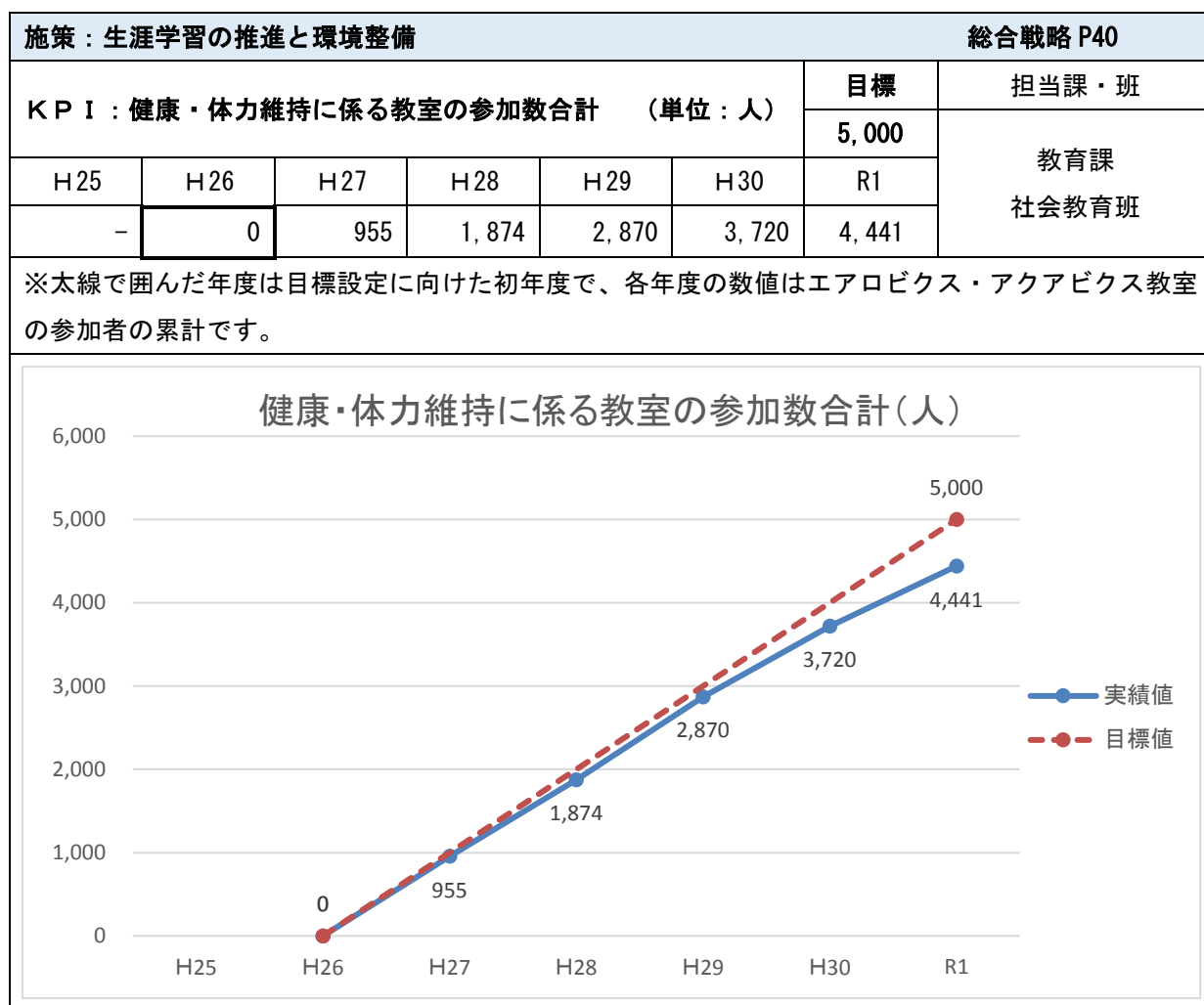
※太線で囲んだ年度は目標設定に向けた初年度で、各年度の数値はそれまでの累計です。



御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート

これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <p>〔消防団員〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の処遇改善（報酬の引上げ）を行いました（H27）。 ・消防団員の安全対策を（備品の強化）実施しました（H29）。 ・消防団フェスタを開催し、消防団活動の周知等に努めました。 <p>〔自主防災訓練〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、防災機関と町民が一体となって防災総合訓練を実施し、地域の防災意識の高揚を図ってきました。 ・平成 29 年度からは、事前に地域の実情と防災に関する課題を聞き、課題に合わせた訓練を実施しています。 ・各自主防災会を対象に防災に関する講演会を実施し、地域の防災意識の高揚を図りました。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <p>〔消防団員〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団員のうち被雇用者の割合が高いこと（約 7 割）、少子化で対象年齢層（18 歳～47 歳）が少なくなっていることから、団員数が低下していると考えます。 ・平成 29 年度の急激な減員は、人数の多い世代が定年退職を迎えたためです。 <p>〔自主防災訓練〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの方が訓練に参加し、防災意識の高揚と維持を図る必要があると考えます。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <p>〔消防団員〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き消防団の必要性を啓発し、町民の理解を得て団員確保に努めていきます。 <p>〔自主防災訓練〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域の実情に応じた防災訓練を実施し、防災意識の高揚を図っていきます。



これまでの実施状況とこれからの方針

<p>【主な実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般成人の方を対象に、運動不足の解消や健康づくりを目的にエアロビクス・アクアビクス教室を開催しています。 ・ 平成 29 年度はプールを閉鎖していたため、アクアビクスは開催していません。
<p>【要因（目標の達成等を阻害している要因）や課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平日の昼間に開催しているため、利用者は 60 歳以上の方がほとんどで、かつ固定されてきています。住民の健康増進を図るためには、利用者の裾野を広げることが必要と考えます。 ・ 上記の理由から講師の人材も不足しています。
<p>【要因や課題を踏まえた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土日の開催や開催日を増設など、利用者の増に向けた取り組みを検討していきます。